

【報告】第 17 回新春緊急北朝鮮問題セミナー

「張成澤失脚、どうなる北朝鮮」

2014 年 1 月 29 日 東京・学士会館

講師: 五味洋治(東京新聞編集委員)

コメンテーター: 小牧輝夫(東アジア総合研究所所長)

モデレーター: 小野田明広(東アジア総合研究所副理事長)



東アジア総合研究所は、北朝鮮のナンバー2 とされた張成澤国防委員会副委員長が 2013 年 12 月に失脚・処刑された衝撃がさめやらぬ 1 月 29 日、東京新聞の五味洋治編集委員を講師に迎え、東京神保町の学士会館で新春緊急北朝鮮問題セミナーを開きました。北朝鮮問題セミナーは 17 回目。金正恩第 1 書記の異母兄、金正男氏との往復メールの著作で知られるベテラン北朝鮮ウォッチャー、五味講師が、興味深い現状分析を報告。当研究所の小牧輝夫所長や姜英之理事長、会場の参加者

たちと五味講師との間で、活発な意見交換が展開されました。

冒頭に姜英之理事長が「2010年春の韓国哨戒艦『天安』沈没事件をきっかけに北朝鮮セミナーを開始、「ポスト金正日」を見据えつつ、核実験や長距離弾道ミサイル発射など朝鮮半島情勢の激動を適宜フォローしてきた」と経過を概観。講演と関連資料、月刊誌やウェブ版の「東アジアレビュー」への報告を通じ、金正恩体制への移行過程を浮き彫りにできたとの自負を抱いていると述べた。

北朝鮮支持と非難の激しい意見対立を持ち込んだり優劣を付けようとせず、異なった意見を尊重するリベラルな立場から、客観的で正確な論議を深めるのが、東アジア総合研究所の北朝鮮セミナーの目的だと述べ、参加者に理解を求めた。

当研究所の小野田明広副理事長がモデレーター役となり、五味講師の著書「父・金正日と私 金正男独占告白」が、料理人・藤本健二氏の本と並び、北朝鮮要人に関する貴重な1次資料として国際的に高く評価されていると紹介した。



五味講師は、自著を2012年1月に刊行した後、マカオを訪れたり手紙やメールを送ったりしたが、金正男氏とは連絡が取れなくなっている事情を説明

した。金正男氏の友人の話では、金正男氏は中南米の島に自らの投資会社を保有しており、生活費には困っていないという。真偽はよく分からないところもあるが、張成澤失脚後も「それほど影響は受けていないのではないかと、この友人は語ったそうだ。

2013年暮れ、週刊誌の依頼で「張成澤失脚の背景」を脱北者らから聞き取り、北京勤務時代に知り合った中朝国境地域の住人や朝鮮族の人とも連絡し、うわさが中心だったが、情報を集めてきた。直接取材、報道、聞き取りを区別しながら、参考になるよう報告すると述べた。

◆ 張成澤と崔竜海

張成澤氏は、報道された経歴のほか、1991年ごろ訪日、在日朝鮮人団体の歓迎を受け海浜公園などを視察、公安関係者が警備したとの話があったという。

2006年に本人を直接見る機会もあった。金正日総書記が広州など中国各地を視察をした後、張成澤氏が約40人の経済テクノクラートを率いて訪中した際の北京空港での話だ。大量の資料を抱えたテクノクラートの乗るワゴン車を従え、中国外務省の高級車に1人だけ乗って到着。小柄で、質問したがジロツと見ただけで答えず、ゆっくり慎重な歩きぶりだった。当時、北朝鮮の訪中団は、中国式の改革開放を真剣に考え学んでいったとされていた。時期的に早すぎたのか、北朝鮮については経済改革の動きが見えたとか消えたとかはっきりしない話が多かったが、これもその一つにすぎなかったのか、今でも明確ではない。いずれにせよ、中国南部で1週間にわたりハイテク企業などを視察し多量の資料を持ち帰ったことからすると、それなりにやる気があったのではないかと。張成澤氏と中国の結びつきが強いという話は、この2006年ごろから次第によく聞かれるようになった。張成澤氏はそれまで実力者としては知られていなかった。

張成澤氏は韓国も訪れて視察し政府要人と会った。統一相として当時会談した丁世鉉氏は「穏健で合理性のある人間。自分で人を集めたのではなく、人が自然と集まってきたようだ」と言っていた。1月9日のNHK総合テレビ「クローズアップ現代」に出た「張成澤氏をよく知る脱北者」はワシントンで研究員同士の知り合いだったが、「張成澤氏は部下とよく飲んだりする面倒見の良い人だった」と指摘していた。この脱北者は金融関係スペシャリストで、シンガポールにいた人だ。

一方、在日朝鮮人商工人からは、張成澤氏が平壤の大同江のほとりにある招待所をホテルに改造し、金をかけた接待で自派の系列作りに励んだという厳しい見方も聞いた。またうわさだが、甥がマレーシアにいて、そこに秘密口座を持ち、監視の目を逃れて北朝鮮から客を招待し部下に育てたという話もある。

中国の改革開放に熱心でよく研究していたというプラスの面と、周辺に人を集めて自分で得た外貨を好きなように使ったというマイナス面の両面の評価がある。そのどちらが真実なのかはよく分からない。判決文の中にはマイナス面は多く出てくるが、プラス面はどうだったのか、この処分の結果どんな影響が出てくるかは、今後の論議の的になる点だと思う。

脱北者の間では 2013 年暮れ段階には、人民軍総政治局長の崔竜海氏が張成澤氏と対立しナンバーツーの地位を確保したというのが定説だった。だが 2014 年に入って見方が変わってきているようだ。崔竜海氏が金正恩第 1 書記に同行する回数が減り、写真でも遠くに写るようになったことから、やはり彼も疎まれているのではないかとの憶測が出ている。RP(ラヂオプレス)によると、昨日 1 月 28 日に金正恩第 1 書記が朝鮮人民軍の第 323 部隊を視察した際にも同行していない。必ずしもナンバーツーとして第 1 書記の心をつかみ、がっちり隣に座っているということでもないのかもしれない。今後の動きを見守る必要がある。

対照的に朴奉珠首相が金正恩第 1 書記と同行する回数が増えている。朴奉珠氏は張成澤派といわれていたが、実は対立関係にあったのではという見方がある。北朝鮮で主導権を握っていくのは朴奉珠氏だろうという観測も韓国内で出ている。張成澤氏が肅正されて会議場から連れ出された 12 月 8 日の労働党中央委員会政治局拡大会議で、朴奉珠氏は涙ながら批判演説をした。一方に張成澤氏に同情説、他方に利権をめぐる対立説、と両方の見方がある。今後の金正恩第 1 書記の動きで次第に明らかになるだろう。中朝経済特区の運営チームができて朴奉珠氏が責任者になったという北朝鮮消息筋の報道もある(韓国で活動する「NK 知識人連帯」)。朴奉珠氏はかつて訪中し中国要人と会ったこともあるので、場合によっては近々、朴奉珠氏が訪中する可能性があるかもしれない。

◆ 処刑の背景(判決文の内容分析-1)

判決文で目につくのは、2009 年のデノミの責任、首都建設事業を故意に

邪魔した、石炭をはじめとする貴重な地下資源をむやみに売り飛ばした、資本主義の墮落ぶりが北朝鮮内部に入ってくるように先導した政変陰謀—などだ。私の知っている張成澤氏の像からすると、そういうこともあったのかなという気もする。首都圏建設事業に関連しては、北京で張成澤氏の息が掛かった北朝鮮ビジネスマンが建設資材を購入する機会がかなりあり、それを軍の傘下企業に転売し、そこから利益を得ていたのも軍から不満が寄せられた、と聞いたことがある。石炭は茂山の無煙炭を指しているが、日朝関係が良かった時代には日本の鉄鋼会社にも納入し高く売れていた、と当時取り扱った在日の人から聞いた。だが張成澤氏は中国に配慮するあまり、市場より安い価格で売り、その代わりに中国から建設資材や掘削機を導入するバーター取引をやっていたのだ、と言う人もいた。判決文も、それなりに根拠があるのかなとも思う。

政変は、どの範囲まで支持者がいたのか分からないが、肅正は続行中だと韓国の国情院はみている。

「自白」部分は「全くのでたらめ」という人もいるが、多数の目に触れる文章に虚偽だけを書き並べるとは考えにくい。北朝鮮の発表文には何らかの真実が入っていることが多いと感じられることから、オーバーに書いている部分はあるだろうが完全切り捨てでは済まないと思う。

「国の経済建設が破局的になり、経済が完全に破たんすれば自分が首相になり」など自白とされる部分をそのまま判決文に載せたのは、実際がそうだったのかな、とも窺われる。

第1書記、党、軍などの利害が相反する部分、重複する部分を概念図で示してみた。「外交への口出し」部分については、2013年秋にアントニオ猪木参院議員が訪朝した際に張成澤氏が同席したが独善的にそうしたといううわさもあったので、同議員に直接に聞いた。独自外交をしていたことはないだろうと否定的な見方だった。「正恩元帥から、難しい時期に訪れてくれて感謝する、今後も尽力してほしい、とのお言葉を授かってきた」張成澤氏は切り出したということで、言葉通りに受け止めれば、金正恩氏から指示を受けて外交をしていたことになる、とアントニオ猪木議員は言っていた。

最近1月に同議員が北京を訪れた際に張成澤氏処刑の話を知ったら「権力が大きくなりすぎた」と人々は言っていた。北朝鮮で商売をやっている中国人が「許認可権が早く下りるようになった」と喜んでいて、「張成澤氏が権利を独占し、なかなか処理しないで滞っていたのか」と尋ねたら「そうじゃあないんですかね」と言っていたそう。

◆ 組織指導部と行政部との対立 外貨稼ぎ部門 54 局

張成澤氏が所属していた労働党行政部の機能は明確でなく、さまざまな見方があるが、ある脱北者は、本来は組織指導部の中であって検察、指導、人事、通達などが管轄対象だったが、金正日総書記が脳卒中で倒れた後に張成澤氏がどんどん権限を膨らませたと述べていた。核心部署だった組織指導部が張成澤氏の行動を苦々しく思い、金正恩第1書記に通告したのではないかという。

興味深いのは、韓国にいる3人ぐらいの脱北者が張成澤氏処刑の後、携帯電話で平壤に連絡を取ったところ、同じエピソードを聞かされたことだ。11月に、後で処刑された張成澤氏の部下がどこかでパーティーを開き「張成澤氏、万歳」と言った、それを組織指導部などが聞き知り金正恩第1書記に報告、前からくすぶっていた反発が爆発したという話で、かなり広まっていたようだ。真偽が判然としない「行政部解散」報道も流れている。

「54局」については、中朝国境での取材時にかなり早くから「54部」として聞いていた。当時はよく分からなかったが、韓国報道に間もなく「軍総政治局の外貨稼ぎ会社、対外的には『勝利貿易会社』と称している」と紹介された。同社に所属する北朝鮮ビジネスマンは確かに北京などにいたことは自分も確認した。先軍政治の政治資金の調達として金鉱、炭坑、鉱山、漁場の独占権を一手に収め、平壤と元山にデパートを持っているとの話もある。党38号室に次ぐ2番目に大きな外貨稼ぎ会社、石炭利権をめぐる争いが引き金、などと聯合ニュースや「ニューフォーカス」は伝えた。



◆ 消えた人 浮上した人

「消えた人 浮上した人」で浮上組にある「三池淵グループ」は、金正恩氏が聖地白頭山の麓にある三池淵という場所を視察した時に同行した若手中心の人々で、これから力を持つと目されている。在日の人から、呉克烈国防委副委員長は金日成主席と一緒に戦ったパルチザンで高齢だが、前から張成澤氏のやり方に業を煮やしていて、今回処分劇にかなり協力したのではとも聞いている。今後の推移を見る必要がある。科学技術振興の責任者に就任したとの説もある。

張成澤派には、中国大使、キューバ大使、マレーシア大使、ユネスコ代表部副代表などが含まれるようだ。甥の張勇哲マレーシア大使は召還後に帰任していないのが確認されているようで、長期に渡る消息不明から処刑の可能性も取りざたされている。北京の北朝鮮大使館で厳しいチェックが進行中だとも北京の知り合いから聞いており、大使は健在で外交活動中だが、大使館員が数カ月交代で順番に北朝鮮に召還され厳しい思想調査を受けているということだ。韓国側との接触、中国秘密警察との接触が疑われているらしい。韓国報道だと親類 20 人が処刑、非直系親類も農村送り、とされている。また中朝国境の中国人ビジネスマンによると、北朝鮮で近く 60 歳定年制が導入されるといううわさがある。すぐ実施とは思えないが、少しずつ 60 歳以上が排除されていく可能性がある。「浮上組」もそうなっていくと、金正恩氏の権力継承の次のステップになるのか、あるいは不安定性を招く恐れがないか、今後の注目点となる。

◆ 判決文の内容分析-2

判決文を特殊ソフトを使い頻出語を調べてみた。全 5000 字の中で「政変」は 8 回、「策動」「反逆者」も多い。抱いていた野望に焦点を当て、張成澤氏の危険性を国民にアピールしたい狙いが大きかったのではないかと推察することができる。

◆ 新年辞から見る経済への関心

金正恩第 1 書記が元旦に読み上げた「新年の辞」も同様に頻出語を調べたところ、もちろん「人民」が最多だが「建設」という言葉が今年の 8 回に比べ

今年は 19 回と急増している。素直に受け取れば都市建設などに力を入れようとしている兆しのような。今年は「生産」「勤労者」も多く、逆に「金正日同志」は 6 回と昨年の半分以下になった。あえて踏み込んで解釈すれば、今年は自分の独自路線を意識、経済建設に本腰を入れるという意味かもしれない。北朝鮮は昨年、中朝国境地帯を中心に 13 カ所の経済開発区の建設を発表した。丹東にいる友人によると、張成澤氏処刑後に黄金坪開発区に北朝鮮から大規模な視察団が来て、開発促進を要請する交渉を地元で行っていたという。この話の通りとすると、北朝鮮は中国と親しかった張成澤氏がいなくなっても、中国とはなるべく経済協力は進めていきたいのではないか。そのような気持ちがあるのは間違いないように思える。

新年辞が年間の全てを言い当てるわけではないが、「並進路線」の出現は核兵器について 1 カ所だけ。昨年は「革命武力」など勇ましい表現が続出したが、今年は非常に防衛的で穏やかな印象を受ける。農業部門、建設部門、科学技術部門を先頭に、企業体の責任感を高める、など経済に重点を置いた新年辞だったと言えるだろう。

ただ過去に新年辞で強調された対外貿易の拡大、石炭の輸大などの表現は今年、皆無だった。韓国統一研究院の北韓研究センター、朴*重(パク・ヒョンジュン、*はさんずいに同の横棒なし)所長は韓国メディアに、核心事業として推進中の経済開発区に言及がほとんどなかったのは内部の葛藤を感じ不安に思っているのではないかと、ただし核兵器を含む攻撃兵器の現代化に拍車をかける可能性があるなどと指摘している。

建設事業で、金正恩氏が推進しているのは馬息嶺スキー場など娯楽施設が多い。現地視察したアントニオ猪木議員によると、馬息嶺のホテルは非常に豪華で、ゲレンデも 10 あるが、雪がなかったという。写真を見ると人工雪をまくスノーマシンがあるはずだが、それで整えられないようだ。これを国際的な呼び物にして外貨をどんどん集めるのは少し無理ではないかと、感じている。

韓国国情院は娯楽施設や金日成主席・金正日総書記偶像化に 263 億円を費やしたとの推計を国会に報告した(北朝鮮住民の食糧 3~4 カ月分という)。

◆ 張成澤処刑の経済への影響(聞き取り)

張成澤氏の処刑が経済にどう影響するかを、脱北者の話や米国の情報でまとめてみた。北朝鮮のビジネスマンはやはり中国側との接触を控えている。国境がかなり封鎖されていて支障が出ているが、旧正月が明けた後はどう

なるか見守りたい。平壤の都市建設工事も停滞するのでは、今までのような急速には進まないのではという見方が出ている。一方で張成澤氏は軍の介入で混乱を招いた経済を立て直そうとしていた、だから(処刑で)経済はますます苦しくなるのでは、という2つの見方がここにもある。動向を見守るしかないだろう。

◆ 金敬姫と金正男

金正恩第1書記の叔母、金敬姫氏は2013年9月9日の国家樹立記念日の閲兵式に参席後、表舞台に姿を見せていない。脳死説、危機的病状説、死去説もあるが、最近のうわさでは海外に、スイスで療養しているのではないかとされている。「白頭の血統」に属す人なので、どんな形でも死去なら発表する必要があり、逆に秘密にすれば社会に混乱を招きかねないと思われ、死亡説は考えられない。

金正男氏については、脱北者から「安全を確保されており、生活には困っていない。将来は大使になる可能性もある」と聞いた。シンガポールやマレーシアを行き来して投資をし、中南米に投資会社を持っていて最近は場所を移したらしい、という話だ。昨年私が北京を訪れた際には、車が2台付き警備が倍増され厳しくなっていると聞いたが、必ずしも中国にいるわけではないようだ。ただ十分な情報がない状態となっている。

以前は金正恩氏の脇によくいた妹とされるヨジョンは、最近あまり見られなくなっている。「まじめだが奔放な面もある」と伝えられている。

◆ 住民への影響

張成澤氏の処刑は北朝鮮住民にどんな影響を与えているのか。脱北者の証言の中には「死ぬべき人が死んだ。あんなやつは腹立たしい」という声がある一方、アジアプレスによると自分と張成澤の関係を述べた「反映文」「自首書」を書かせて思想統制を強めているという話もある。社会的な統制は、軍は総政治局、党は国家安全保衛部、内閣は社会保全部、それに金正恩氏が作ったとされる人民軍内務軍(数万人単位)の4つの組織で行っていると説明した人もいた。内務軍はあまり聞いたことがなかったが、報道では首都建設などに従事する張成澤直系の集団とされる。住民の中に恐怖感、失望などもあるという。これらがどういうベクトルで進んでいくのか、脱北者の増加いかん、第2の張成澤が出て反旗を翻すことがあるのか、社会が不安定化していくのか、逆に団結が高まったり、指導力が確立したり、新たな経

済政策が出たり、外交が本格的に動くのか。両極のどちらかに一気にいくのではなく、これらの位相をぐるぐる回りながら北朝鮮は進んでいくのではと思う。

どこまで本当なのかよく分からないが、わが東京新聞が1月23日に大きく報道したハノイでの日朝接触も関心と呼んだ。いきなり局長級はすこし無理な話で、日本大使館の人が北朝鮮の人に会うぐらいが自然ではないかと感じている。北朝鮮は韓国とうまくいっておらず、対米関係も順調に進みそうもない、中国とは資源収奪とか影響力への警戒が強くスムーズにいきそうもない。

素人的に考えても、日本にアプローチしてくる可能性はある。どういう形でくるかの判断は難しい。拉致被害者問題は特定失踪者を含め拉致された全員を返せと日本側は言っており、これだと間口が広がって、何人か帰って来ても満足できず、逆に安易な妥協と非難され「火中の栗を拾う」ことになりかねない。名簿をもらうとか、とりあえず平壤にいる人だけ返させるとか、さまざまな手はある。安倍政権は消費税値上げや集団的自衛権など支持率上昇要素がないだけに、思い切って日朝関係で賭けに出ると言う人もいるが、昨年も同じ話があったのに全然動きは起きなかった。そんなリスクをとらずとも十分な程度の支持率は維持しているので、まだ大丈夫と踏んでいるのではないか。日本側は追い込まれていない、北朝鮮側は追い込まれている。従って接点を探る動きはあるだろう。遺骨拾集問題で北朝鮮に往き来している日本人の話では、最近北朝鮮側が日本にある北朝鮮関係者の遺骨の参拝を求めているようだ。今年それに関係する動きが出るのかとも思う。ただ日本側団体の内紛が深刻化している話もある。

◆ 対外関係の展望

中国、韓国、米国、日本との対外関係展望で、中国については、北朝鮮が今後不安定化するかもしれないので金正恩第1書記を積極的に呼んで自国側に引きつけようとするという説と、中朝関係は停滞するという2つの見方がある。昨年の貿易も大分落ち込んだという報道もある。

昨年12月12日に北朝鮮外務省の李光男儀典局長が北京を訪れたが、その後は特に張成氏処刑の問題をフォローするような動きはない。中国は国際社会の目があるので北朝鮮の挑発行為には制裁で対応する、それが嫌なら6カ国協議に戻り皆の輪に入ってくれ、そういう風に進めていくと思う。韓国は、開城工業団地、離散家族の面会を中心とした宥和政策を続けるだ

ろうが、最近の北朝鮮の「平和攻勢」にはかなり警戒している。朴槿恵大統領は統一すれば良いことがあると言い出しており、北朝鮮の内部情勢がかなり厳しい、自分の一貫した対北政策が功を奏し向こうが折れて妥協してくるのではと読んでいるようにも見える。

米国は核放棄最優先を貫く構えで中途半端な妥協はしないだろう。軍事演習を実施するので、このままいけば昨年のように、北朝鮮が警告し挑発姿勢を示す可能性があるのではないかと思う。

核兵器放棄については、皆さんも感じられている通り、可能性はほとんどないと思う。昨年に発表されたといわれる労働党の「10 大原則」を入手したが、その中に「偉大な首領様と将軍のおかげで、核武力を中心とした無敵の軍事力を持つようになった」と明記されている。北朝鮮の人々はこれを暗記し続けているので、簡単な放棄はあり得ない。

日本は拉致、核、ミサイルの一括解決を主張しており、核放棄展望がないと3点セットは難しい。最近の新聞に、安倍政権の拉致問題への優先度が下がっているという指摘が出ているが、確かにそう感じられる、拉致解決を売り物にしなくても十分やっていけるという意識があるようだ。

北朝鮮難民基金の人から、中朝国境が緊張しており、中国側住民は何か起きるのではと不安がっている、中国人民解放軍の瀋陽軍区が、伝えられる10万人ではなく15万人を増強して軍事演習をしており、北朝鮮に圧力を掛けているのではないか、との話を聞いた。北朝鮮側ではコンクリート製トーチカを築いていたという。韓国の息のかかった軍部隊の侵入、演習時の中国側の動きに神経を尖らせている印象だったという。頼みの綱の中国との関係がそれほどぎくしゃくしているとすると、北朝鮮がこれから経済的自由化を進めるのは難しくなりかねない。北朝鮮の上の人の考えていることと、下の経済関係の人が考えていることが一致していない、上部と下部の構造がスムーズでないとすれば、政策の展開は容易ではないだろう。



◆ モデレーター・小野田明広より

五味講師の言及した2013年の中朝貿易について、モデレーターは日本経済新聞を引用し「貿易総額は65億5600万ドルと2年連続の60億ドル超過で過去最高水準になったが、13年2月に北朝鮮が核実験に踏み切って制裁が科された結果、核実験前の年である2012年に比べると8.6%と伸び悩んでいる。中国の北朝鮮への輸出も2.8%増にとどまった」という中国税関の発表を紹介した。

◆ コメンテーター・小牧輝夫より

この後、小牧輝夫所長が、丹念な取材と多くの資料を使った五味講師のまとめを高く評価した上で、対立構図など数点についてコメントを加えた。

小牧所長は社会主義国での対立のパターンとして、イデオロギー的・思想的対立を第一に挙げ、社会主義国で過去に何回もあり一番深刻なものだと指摘。次に路線対立や政策対立、さらに権限や利権対立が続くだろうと述べた。今回の張成澤氏の肅正・処刑の位相がどれに近いか考えると、どちらかと言うと権限・利権対立で、政策や路線対立にまで至らなかったのではないかと感じられると述べ、五味講師の意見を求めた。

また、金正恩第 1 書記が自らの権力を確立するために肅正・処刑を行ったと思われる位置付け。判決文が完全なでっち上げではなかろうという五味講師の見方に同意すると述べた上で、一方的な主張なので、張成澤氏がどの段階まで明確な挑戦をしていたのかはよく分からない状態だと指摘。

金正日総書記の死去に伴い若い金正恩氏が後を継いだことで、新体制の構成が注目された。後見人として張成澤氏の名前が浮上したが、同時に、果たして支える役割に徹することができる人かどうかという疑問が当初からあった。一般的に言って、朝鮮半島の歴史の中で若い王子が新たに王位に就いた際には老臣たちを排除することが多い。その歴史に照らし北朝鮮でも後見人体制はうまくいかないとも言われていた。ある程度その予測に沿った動きとも言えるが、今後はどうなるのだろうか。

崔竜海氏は難しい立場だろうが、金正恩氏を支える中心人物が誰なのか分かりにくくなったと指摘。金元弘・国家安全保衛部長が重要な役割を果たしたので中心になるとの見方もあるが、治安面で有能な人でも国家戦略などはどうなのか。有能で頭が良すぎる人は「第 2 の張成澤」になる危険もある、と五味講師の意見を求めた。

経済政策や国内への影響の五味講師の説明にも、多くの点で同意だとしながら、「改革開放的な動き」が今後なくなってしまうかどうか論点だろうと指摘した。当面は警戒して大きな動きはないかもしれないが、北朝鮮経済の現状、周囲の環境を考えると、やはり改革開放的な方向でしか経済を立て直すことはできないと感じる。だから、これで完全に芽はなくなってしまうとは考えていないが、五味講師はどう思うかと問題提起。

朴奉珠首相、盧斗哲副首相ら、従来、改革的な動きを実際面で指導してきた人たちが今のところ健在のようで、将来は分からないにせよ、政策的に大きな転換がないのではとも考えられると指摘。

また講師が新年辞で「チュチェ(主体)」という用語が今年見られないと指摘されたことに関連し、「チュチェ」を今の時代に合わせて実務的にかつ柔軟に適用しようとする動きとして注目されると指摘。

対外面で対中国関係が冷え込んでいるが、時間がたてば双方から修復の動きは必ず出てくることになろうと指摘した。だが、中国は本気で北朝鮮の

核開発を認めない姿勢のようなので、いずれどこかで線引き、何らかの妥協のようなことが行われないと、中国も周辺諸国も対応しにくいと述べた。日朝関係はわずかに細い糸がつながっているだけだが、安倍首相の支持率との関係で五味講師が日朝関係改善の優先度は低くなっているのではと指摘した点が興味深かった、とコメントをまとめた。

◆ 五味講師からコメント

五味講師は「今回の政変がイデオロギー的対立だと良いと思っていた」と回答を切り出した。張成澤氏が本当に中国式の改革開放を進めようとしていた、と受け止めている人がいたからで、金正男氏もそうだった。張成澤氏が身を賭して何かをして処刑されたのかと思ったが、聞いた範囲や報道を見る限り、「権限・権益を乱用した」との受け止め方のようだ。小牧所長の指摘のように、これから経済特区の開発や農業の(分組)小規模化など経済改革が進んでいく可能性があり、今後の動向を見たいと述べた。

ただし、03～06年の取材時にも、北朝鮮が農業の(分組)小規模化をやっているらしいという話があり、他の日本の報道機関とともに書いたが、全然進まなかったこともある。後で聞いたら「試験的な段階から広がらなかった」という。今回もどこまで進むかに疑問はあるが、住民に喜んでもらえる娯楽施設の建設路線などは進めていこう、それが対外的開放につながれば良いと思う、と指摘した。

日本については、アントニオ猪木議員も「さらに来てもらいたい」と聞いてきて、北朝鮮外務省局長も「特定の例外を除き誰でも来ていただいて結構だ」と別の機会に発言している。日本に対してはハードルを下げている印象を受ける。

金正恩氏の権力確立ぶりには諸説あり、五味講師も分かりにくいと認めた。北朝鮮と取引している商工人は、パルチザン系の年配の人がパワーグループになりアドバイスしていると見ている。確証はないが、金正恩氏はせっかちな性格なので、他人の意見を聞いてうまくいかないとすぐに遠ざけたりしたりもしているようだ。既に軍や党の幹部が多数入れ替えられていると伝えられており、今後も入れ替えは続こう。呉克烈氏を先に注目人物に挙げたが、確か昨年、北朝鮮を訪れた人の話では歩くのもやったださうだし、金正恩氏に本当に影響力がある人が誰かはよく分からない、という。

中国にとり北朝鮮は、70年近くの関係があり、崩壊は避けたい、石油や食糧を最低限は与えるという現状維持路線は今後も着実にとっていこう、と五味講師は指摘。ただ胡錦濤時代に比べると習近平中国国家副主席は少し北朝鮮に冷たくなっているというのが印象だ。米国とのパワーバランス、米に匹敵する大国願望があり、北朝鮮の言うことばかり聞いてはもらえぬという姿勢。中国は北朝鮮にとり生命維持装置でありながら、以前よりは厳しい姿勢で、口ももう少し出していく可能性があるのではないか。そうすると、金正恩氏の訪中も当分はないのかもしれない。中朝関係も少し難しい時代に入っていく気がする、と五味講師は述べた。



◆ 参加者との意見交換

モデレーターが再度、冷静な知的対応を求めた後、参加者からの質問、意見交換に移った。

張成澤氏の肅正・処刑に付随して海外に派遣された外交官らが召還されている動きに関連、なぜ亡命事件が起きないのか、との質問があった。五味講師は、以前は家族単位で海外赴任する例もあったが、この数年、親族が平壤に残ったまま「人質」化とも言える扱いが常態化しているようだと言

摘。家族、特に子どもが帰国させられ、本人もその後で召還に応じる。海外任地に帰任した 1 人を除き、召還組はそのまま北朝鮮にとどまっている状態で、そこから処刑説が出ていると説明した。

北京で付き合った北朝鮮ビジネスマンの中で本当の金持ちは家族で住んでいる人もいた。だが単身赴任がほとんどで、金を奪い逃げないよう「担保」が取られているとも言える状態だったという。

「処刑」は死刑以外の刑を科す意味もあるが、朝鮮半島ではまず死刑を指す、と補足説明があった。

別の参加者は「改革開放」という言葉の受け止め方で問題提起。金正恩氏の一昨年の施政方針演説だと、核武力で平和を確保、それができたから経済建設、特に人民生活の向上に全力を注いでいく、という流れだという。それをやるには今回セミナーでいろいろ論議された「外資の導入」が必要だ。しかし、この「外資導入の必要性」を日本、米国、韓国の新聞報道は「改革開放」と連結する形で報じるという。北朝鮮は資本主義へ向かうための「改革開放」という日米韓メディアの捉え方は受け入れておらず、国内でもこの表現は使っていない。言葉のニュアンスに差があることを認識した方が、論議が正確になる、との指摘だった。

五味講師がこれを受け、「短期的に見ると、北朝鮮がある日突然、中国のように改革開放をするのだと大号令をかけて進むとは思えない」と指摘した。死刑判決文で「資本主義の堕落ぶりが入るよう先導」と糾弾している北朝鮮の体制の中に、大々的に外国資本が入ったり、外国人が生活するようになるとは、今後も考えにくいとの見方を示した。しかし脱北者への聞き取りで驚いたのは、処刑報道が出たその日の朝、5 時とか 6 時にソウルから平壤に電話をしてみたという人が何人かいたことだったという。今までは中朝国境地帯だけだったのに、平壤まで電話が可能になっているのかと。訪朝された方はご存知と思うが、外国と通話できる SIM カードが売られているので、それを利用しているのかもしれない。でも盗聴を警戒して 10 分ぐらいしか続けて話せない。「まだ報道がないので分からないが処刑された可能性はある」と言っていたそうだ。それを見ると、ゆっくりではあるが、北朝鮮の社会も開いてきている。また閉じてしまうかもしれないが、かなり変わってきている。小牧所長からも関連した話を聞いた。

だから、右に行くか、左に行くか(という単線上の話)ではなくて、ぐるぐる回りながら少しずつ変わっていくのが無理のない方向ではないか。

五味講師は馬息嶺スキー場開発を注視しているが、元山の近くに国際運動施設を作り、国際競技を開催、収益も上げる発想は、成功するか失敗するかは別に、昔から考えれば大きな変化だと指摘。ベルン滞在中に見たスイスのスキー場イメージを金正恩氏が持っている可能性もあるという。

姜英之理事長が「改革開放」についてコメント。市場経済化という意味で言えば、小牧所長が指摘したように北朝鮮も改革開放に進まざるを得ないが、北朝鮮式の改革開放、北朝鮮式の市場経済化がどうなるかが焦点だと指摘。既に経済を牛耳っている軍部勢力の中で開放的な幹部が必ず出てくるはずだ、そのような軍部勢力が改革開放を進めていく可能性もあり得ると述べた。

参加者からさらに、死刑判決文にも盛り込まれていた北朝鮮の地下資源の品質、規模に関する質問。

五味講師は、日本植民地時代の古い調査資料のほか、韓国政府が4、5年前にまとめた調査資料もあるが公開されていないと説明。現在は中国への輸出はストップ、中国側には北朝鮮側が主張するほど品質は良くないという声もあるという。

地下資源ブームがレアメタルを含めてやや沈静化しているようなので、開発は将来の課題ではないかというのが五味講師の受け止め方だった。